
輝くあの日に戻るため

三井島光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

輝くあの日に戻るため

【Zコード】

Z1245D

【作者名】

三井島光

【あらすじ】

田をさますと僕は天国、喧嘩して家を出たけれど、トラックにはねられて、死んでしまった。高2の智雪、、、楽しかった日々を取り返すため、この世界にもどるが世界は変わっている。この先、智雪は、、、

・第一話・

僕は今・・・・・

何処にいる?

何故目の前は白い・・・

なんだか思い出した気がする。・・・

ここは空?白いのは雲?

やつぱり、死んだんだ・・・

まだ、・、まだ早すぎる、戻りたい、戻れる気がする、・、けど、
体は自然と雲より高く浮いていく、・、

何故だろう、体がゆうこと聞かない。 人は死んだとき、天国か
地獄にいくと聞いたことがある。

体がとまつた。前には、長い列がある。それぞれ嬉しそうな顔をしていれば、悲しそうな顔の人もいる。泣いている人も、犬もいれば猫もならんてる。列は素早く人間か、動物か、分けられていく。おそらく素早く天国か地獄に分けるために、種類別にしているのだろう、・、

僕は何とか、人間側に分けられた、少しホッとした。前からサラリーマンがくる。もちろん歩いてではなく、浮いてだ。

「はい、君が今日の最後の人ね、先頭から、最後の人まで、天国。」

アツサリ決ました。喜んでいいのやら、、、

一人一人シールが肩に張られていく

「19925368番」

「なにこれ？」僕は独り言でいつたつもりだった。

「質問は一人一回、みんな聞いてたら大変だから、そのシールは19925368番目に死んだ証拠、はい、以上、早く前に進んで。」とサラリーマンらしきひどが眼鏡を、ふきながらめんじくをそうじといった。

目の前の大好きなアーチに吸い込まれていく。

「まつて、まだ聞きたいことが」・・・

「質問は一人一回」

・第一話・（後書き）

まだ続きを書きますので、感想をよろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1245d/>

輝くあの日に戻るため

2010年10月11日15時29分発行